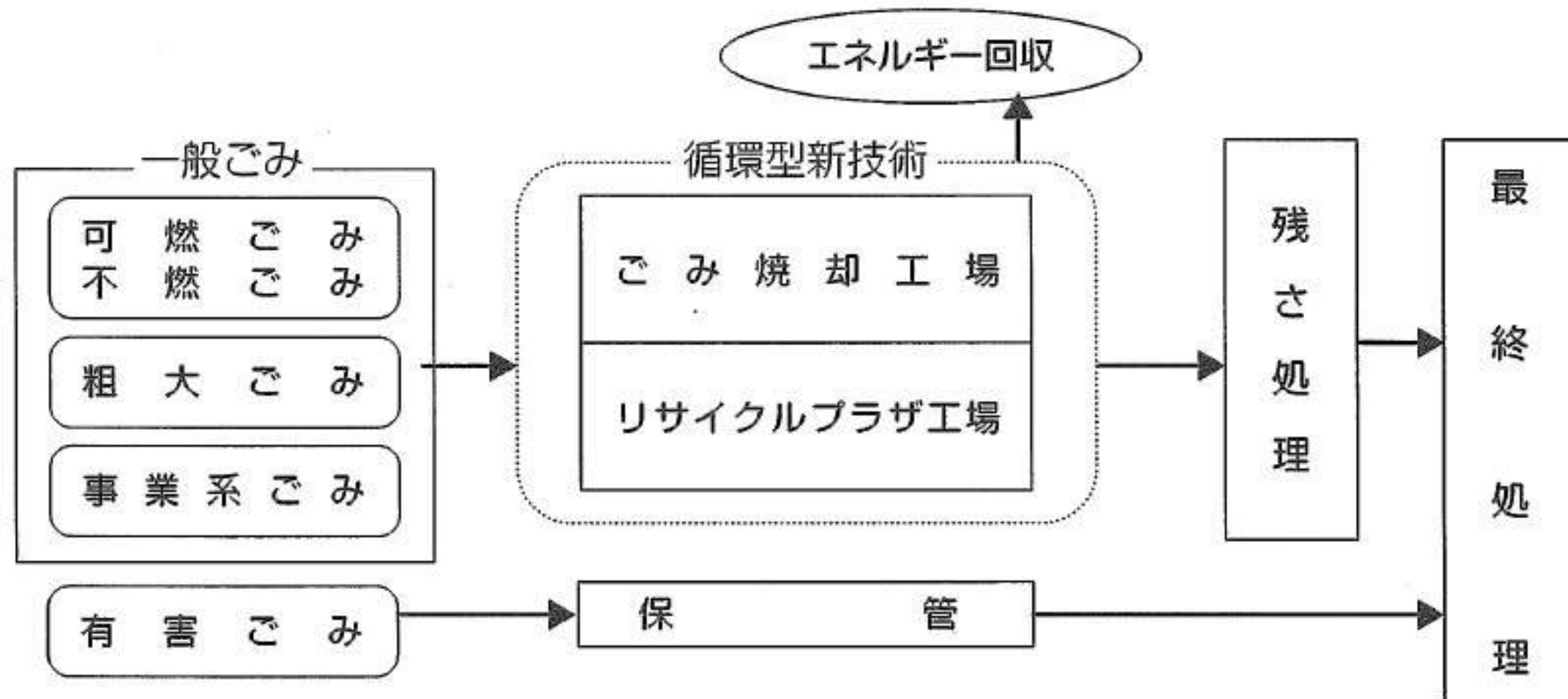
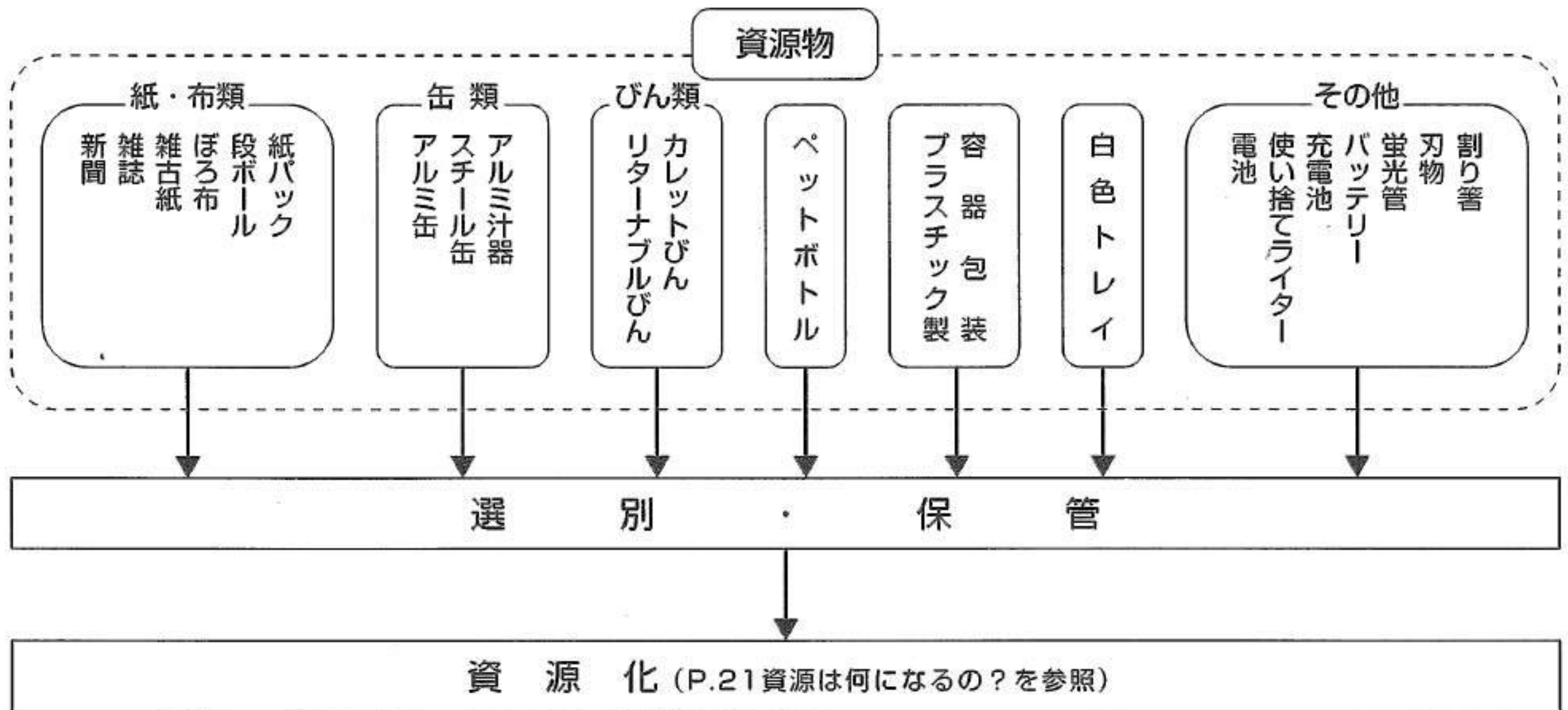


## 4 分別収集するごみ・資源の区分と種類



- 最終処分場を民間最終処分場及び愛知臨海環境整備センターに依存しています。どちらも近い将来（前者：平成17年、後者：平成22年）使えなくなる可能性が高く、次期最終処分場の確保は重要な課題となっています。
- 焼却残さ、埋め立てごみをできる限り少なくするために、徹底したごみの発生・排出抑制と資源化の推進を図っていく必要があります。